

第13回目の研修テーマは、「肯定的注目」についてです。

子ども達に対して「ほめる」ことが効果的であることは誰もが知っている事です。しかし、実際に「ほめる」という行動を実践してみると、とても難しいと感じた方も多と思います。「ほめる」という行動が中々うまく出来ない理由として3つの理由が挙げられます。それは、①子どもが「ほめる」に値する行動をしないからほめることが出来ない。②良い行動よりも大人を困らせる行動の方が割合的に多いので、ほめる気持ちになれない。③せっかくほめたのに、子どもが喜ばなかったり同じ失敗を繰り返したりするので、ほめる効果を感じない。以上の3つです。

「ほめる」という行動の背景には、関わる人物の様々な感情が渦巻き、その時の状況やそれぞれが持つ常識が影響を及ぼします。その為、頭では「ほめる」という行動が効果的だと分かっているにもかかわらず、冷静に対応出来ず、結果的に「怒る」「注意する」などの否定的な関わりになってしまうのです。そこで、今回は「ほめる」という行動を継続させる為に、「ほめる」を「肯定的注目」に置き換え、子どもに対しての効果的な関わりを身につけることを目的に研修を行いました。

グループワークのテーマとして、

- ①「ほめる」行動が上手く出来ない理由は？
- ②「ほめる」行動を継続させる方法は？
- ③「肯定的注目」のアイデアは？
- ④「自立」とは、どんな状態になることか？

など、4つのテーマを挙げ、それぞれのグループで話し合い、発表して頂きました。

「ほめる」ことを継続するために一番必要なことは、大人側が「ほめる」ために設定しているハードルを下げ、無理なく子どもに対して継続出来る自分に合った「肯定的注目」の方法を見つけることです。子どもに対してのハードルを下げる事はもちろんの事、大人側が自らのハードルを下げることもとても重要です。

